

〔参考〕 主な支援対象事業の概要

(敬称略)

企業名	区分	概要
株式会社サイトウ工機 【大田区】	B 競争力強化・小規模企業者区分	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画テーマ 高精度な小型歯車の製造工程自動化による生産能力強化 ●内容 当社はホブ盤を用いた極小歯車部品や精密加工部品等を製造。当社製品は釣具や自転車、医療機器など多岐にわたり使用されている。今後、より小型部品への需要が見込まれることから本助成事業を申請し、現有機よりもさらに小型部品の加工に適したホブ盤を導入。現有機で小型部品を製造していたときと比較すると、より高品質な状態で安定した生産が可能となり、バリ取りなどに要する手間や時間を大幅に短縮できるなど大幅な生産性向上が期待できる。さらに24時間稼働の実現と、取引先の多様なニーズに対応可能な体制を構築し、当社製品全般の生産拡大も視野に入れた競争力強化を図っていく。
株式会社高山医療機械製作所 【台東区】	C 成長産業区分 (医療機器)	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画テーマ 最新型精密加工機械の設備導入による医療用脳神経外科インプラントの生産能力強化 ●内容 当社は医療現場に高性能な手術器具を提供する医療機器メーカーである。主な取扱い製品は脳神経外科用手術器具、脊椎用インプラント及び頭蓋顎顔面骨延長装置、超音波手術器具の先端チップ等となり、現在、脳神経外科手術で使用されるハサミの国内シェア9割を当社製品が占める。当社では脳神経外科手術で使用される体内固定用プレート（インプラント）を独自に開発し、2015年に薬事承認を取得して製造・販売しているが、顧客からの要望を受け、さらなる量産への対応が迫られた。しかし、現有機では対応困難であることから本助成事業を活用し、新たに5軸マシニングセンターを導入して生産能力の大幅な拡大を図る。同製品は現職の脳神経外科医からのニーズを受けて開発し、これまでの実績から手術を受ける患者の負担軽減への効果が評価されている。
株式会社クボプラ 【青梅市】	D IoT・ロボット活用（IoT化）	<ul style="list-style-type: none"> ●事業計画テーマ 5軸マシニングセンタ多品種変量生産の自動化とIoTが繋げるクボプラの未来 ●内容 当社はプラスチック切削加工及びプラスチックプレート加工を手掛けるプラスチック加工専門事業者である。近年は医療機器や半導体、分析機器メーカー等からスーパーエンブラと呼ばれる難加工材を使った多品種小ロット部品の受注が増加傾向となっている。近年、顧客企業から具体的な増産対応と人為的ミス等による不良率低減が要求されたことを機に、IoT導入により工場内の機械の「見える化」及び稼働率向上の実現に向けた取組みを開始。公社の「生産性向上のためのIoT、AI、ロボットの導入支援事業」の支援を受け、段取り替えが多く、加工時間が増加しがちな多品種小ロット加工ならではのIoT化を検討した。本助成事業では、新たにNCゲージ搭載同時5軸制御縦型マシニングセンタと多段パレットストッカシステムを購入し、すでに導入済みである各マシンの稼働監視・データ収集ソフトと連携させることで、工程の自動化や外段取り化を実現。生産データを分析することで工程改善や生産性向上を図る。

企業名	区分	概要
武州工業株式会社 【青梅市】	D IoT・ロボット活用（ロボット導入）	<p>●事業計画テーマ 循環搬送装置付きロボットによる自動端末曲げ加工機の連続稼働による競争力強化</p> <p>●内容 当社はオイルクーラーやバッテリークーラー等のアルミ製熱交換器や空調機器に使用するパイプ等の部品を製造する金属加工メーカーである。このたび顧客企業からの増産要求と、さらなる合理化に向けた要求、加えてキズ等の外観不良品を低減させる品質向上への要求に応えるべく、ロボット導入による生産性向上に取り組む。本助成事業では2Dカメラハンド付き6軸ロボット、空調パイプロボット化装置等を導入し、これまで材料投入から製品化まで作業員が立ち会っていた工程を自動化する。これにより日中の稼働と夜間の無人運転を併用した2ラインでの生産が可能となり、当社従業員も単純作業からより付加価値の高い業務に従事できるようにするなど、生産性の向上と品質向上に取り組む。</p>
千代田鋼鉄工業株式会社 【足立区】	E 後継者イノベーション	<p>●事業計画テーマ 高容量・高度制御型の鋼板製造設備導入による新製品開発と事業化</p> <p>●内容 当社は鉄筋コンクリート用棒鋼を主力商品とし、カラー鋼板の商品も製造する鉄鋼建材メーカーである。カラー鋼板の国内鋼鉄市場の約8割を上位4社が占める寡占市場となるため、当社では「高効率化」と「特色ある製品の開発・提供」を追求し、差別化を図っている。本助成事業では、2017年に事業を承継した現・代表のもと、高容量・高度制御型連続塗装オープン設備を購入し、当社が培ってきたカラー鋼板の技術・ノウハウを結集させた新たな付加価値をもつ製品の事業化を実現する。</p>